



## 編集後記

菅義偉首相は6月2日、首相官邸での「ぶら下がり」取材で、東京オリンピック・パラリンピックについて、「まさに平和の祭典。一流のアスリートが東京に集まり、スポーツの力で世界に発信していく」と発言し、さらに「さまざまな壁を乗り越える努力をしている。障害者も健常者も努力をしつかりと世界に向けて発信をしていくため、安心・安全の対策を講じた上でやっていきたい」と記者団に語った。

そもそも「平和の祭典」の起源は古代オリンピックに遡る。紀元前776年から紀元後393年までギリシャのオリンピックで4年に1回開催された古代オリンピックは、神に捧げる祭典として始まったとされ、祭典をはさんで3カ月間は戦争を中止したという。

「オリンピックは、勝つことではなく参加することこそ意義がある」

第2代国際オリンピック委員会

長を務め、近代オリンピックのシンボルである五輪のマークを考案した「近代オリンピックの父」ピエール・ド・クーベルタン男爵の言葉とされている。

そのクーベルタンが創設に関与した「オリンピック憲章」は、1899年に「国際オリンピック委員会規則」としてクーベルタンによつて手書きされ、1908年に初めて明文化された。友情、連帯、フェアプレーの精神とともに相互理解が求められるなどが記されているが、そこには「オリンピック・ムーブメントにいかなる形で属する何人も、どの団体も、オリンピック憲章の条文に拘束され、かつIOCの決定に従わなければならない」と明記されている。

その精神の根幹には、「オリンピック競技大会は、個人種目または団体種目での選手間の競争であり、国家間の競争ではない」とも明記されているのだ。

ところで、近代オリンピックが中止になったのは夏季が1916年のベルリン大会、1940年の東京大会、1944年のロンドン大会、冬季では1940年札幌大会、1944年コルチナ・ダンベツォ大会（イタリア）の5回である。いずれも戦争のせいである。古代オリンピックの精神に鑑みれば、戦争の方を中断にすべきだったのだろうが、近代オリンピックではそうはいかなかったようだ。

政府分科会の尾身茂会長は6月2日の衆議院厚生労働委員会で「今の感染状況での開催は、普通はない」と指摘。開催する場合には関係者がある理由を明確に説明することが重要だという認識を示した。

今まさに人類は新型コロナウイルスとの戦争のさなかにある。参加する選手も、観客も、心置きなく楽しめる東京大会であって欲しいと思うのだが、いかがだろう。

(溪)

# 月刊 公論

7月号 第54巻7号

令和3年7月1日発行 毎月20日発売  
本体価格1,100円(税込) 送料87円

発行人 大中 吉一 編集人 林 溪清  
発行所 株式会社財界通信社  
〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町10-12 ボナフラービル  
TEL.03-5379-5611(代) FAX.03-5379-5616  
印刷所 株式会社廣済堂  
取次店 日本出版販売/楽天ブックスネットワーク

- 直接ご購読をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。
- 万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。